重要なまちづくりの課題の現状評価シート

重要なまちづくりの課題（めざすべき姿）	交通弱者が行きたいところにいける交通手段があり、自立して行動ができる	
施策名	交通弱者が移動しやすい仕組みをつくる	No.43

年度	平成28年度
責任部長	企画部長
主担当課長	交通政策室長
関係課	福祉課、高年福祉課

1. まちづくり指標の現状

まちづくり指標	指標のめざす方向	現状値	実績値					目標値
		H18	H20	H21	H22	H23	H24	5年後
		H24	H25	H26	H27	H28	H29	10年後
生活上、必要なところへ無理なく行ける人の割合（%）	↗	88.0	87.1	86.5	88.4	87.5	88.0	90.3
		88.0	88.8	88.1	88.7	87.8		92.5
交通弱者が自立して行動していると思う人の割合（%）	↗	22.5	23.1	25.8	25.3	25.6	24.0	29.2
		24.0	25.2	26.3	24.1	24.5		35.8
福祉有償運送できる車両台数（台）	↗	64	58	65	72	84	86	84
		86	92	93	97	98		107

2. 外的要因（世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等）

・路線バスの利用者は減少あるいは横這い傾向である。
・利用者の少ないバス路線の多くが廃線となってきた。
・道路運送法の改正により地域住民等の意見を地域の交通施策に反映しやすくなった。

3. めざすべき姿に対する現状評価（まちづくり指標や外的要因等からの評価）

現状評価	**B** 停滞	「福祉有償運送できる車両台数」は微増で推移し、「生活上、必要なところへ無理なく行ける人の割合」、「交通弱者が自立して行動していると思う人の割合」は、微増減を繰り返してきた。 高齢になり免許を返納するなど自由な外出手段をもたない人口が増え、交通弱者が自立して行動していると思う人の割合が減っていると考えられる。

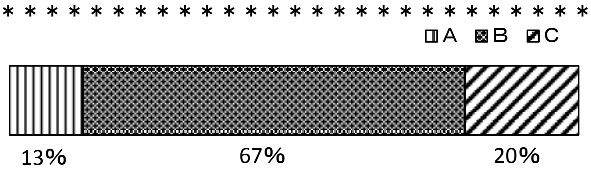
評価がB・Cの場合

4. 事務事業群に対する評価（行政活動の評価）

長期成果（事業群①）	長期成果（事業群②）	長期成果（事業群③）	長期成果（事業群④）
市民が生活の移動手段としてバスを積極的に使用する	障害者・高齢者が自立して移動できる		
i-バス運行事業	身体障害者自動車改造費給付事業		
バス路線維持対策事	福祉タクシー料金助成事業		

評価観点	1. 長期成果は重要なまちづくりの課題（めざすべき姿）の一歩手前の状態となっており、モレなくダブリなく設定されているか。 2. 各事業群の事務事業は、長期成果を達成するのに必要十分であるか。
評価	長期成果は、「バス＝集団輸送」「タクシー・自家用車＝個別輸送」の個々の需要に応じた両面から捉えられており問題ない。 交通弱者の外出特性やニーズに合わせて一定の外出機会を保障するサービスを行うためには、行政の事業活動だけでは難しく、住民、交通事業者、行政が協力し検討していく必要がある。
次年度の改善計画	引き続き住民、交通事業者及び行政が協力して、地域のニーズに応じた公共交通の利便性の向上を検討する。

＊＊＊

市民からみた計画の進捗状況

・A判定（改善傾向）　13 %
・B判定（停滞）　67 %
・C判定（悪化傾向）　20 %